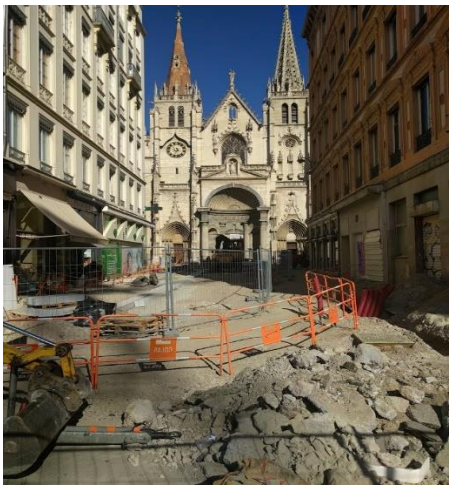
夏期フランス語研修報告書

経済経営学部経済経営学科経営学コース２年
林実奈樹

フランスに着いたとき初めに、渡仏する前、自分の満足のいくほどフランス語の勉強に取り組まなかったことを後悔しました。しかし、たとえどんなに勉強していても同じことを思ったでしょうから大事なことは、現地でいかにフランス語を身につけるかだと思います。私たちがリヨンに到着した次の日にすぐ、研修先の大学でクラス分けテストが行われました。筆記テストとオーラルテストとふたつあり、オーラルテストで聞き取れない部分は英語で対応するため、英語力を持っていることは必須条件だと感じました。また、授業中においても、説明は基本フランス語で受けますが、難しい言葉は英語での説明であったこと、他国からの同じクラスの留学生との意思疎通はやはり英語であったため、フランス語学研修でありながら、英語の重要性を十分に感じました。授業のスタイルは日本では先生からの質問を生徒が答えるような形式が多いですが、研修先では言うなればアクティブラーニングのような授業でした。比較的少人数で構成されたクラス分けのおかげもあると思いますが、例えば会話のシーンを扱った内容の時は、２人組の生徒で前に立ってすぐに実践したりなど、生徒の理解度が分かるような授業であったため、質問もしやすい雰囲気でした。



リヨンは徒歩圏内にスーパーやショッピング施設、ブティックがたくさんあり、買い物す

る際に全く困らないような街でした。また地下鉄も通っているため少し足を延ばして郊外に行くことも可能でしたし、大変な思いをして歩いて丘の上まで行かないといけないようなこともなかったので、交通の便は都心くらい良いと思いました。路上駐車が当たり前らしく、道路わきには車がびっしり停まっていました。ライムというキックボードがそこら中に停まっており、それを使って移動する人もたくさん見ました。トイレは日本のように公園やコンビニエンスストアにあって、いつでも行けるわけではなく、かろうじてショッピング施設にあるとしてもお金がかかるようなシステムだったので驚きました。

私は週末には必ずリヨン以外の街へ遠出していたのですが、初めは地下鉄やトラムの乗り方が分からず、近くの人に助けを求めることがたくさんありました。フランスの方はプライドが高く、フランス語で話さないと冷たく当たるという情報を耳にしたことがあり、そのような先入観をもっていたのですが、そのようなことは全くなく、英語とフランス語を織り交ぜた言葉を話す私に対して、ほとんどすべての人がとても優しく教えてくれました。ある人は乗り場までわざわざ一緒に行って案内してくれました。まさに百聞は一見に如かずという言葉を思い出しました。人から聞いたり、インターネットから得られる情報だけでは、その現地の人々のことなど微塵も理解できていないのだと痛感しました。今回の留学では積極的に話しかける機会があり、それに臆せずに話しかける経験ができたことが一番の成果だと思います。

1 か月の滞在はここに書ききれないほどの人生経験を与え、私の価値観を豊かにし、視野が何倍も広くなったように感じます。初めは不安なことや困ったこともありましたが、この夏、日本にいるだけでは得られなかっただろうと思われる貴重な時間だったと思います。なかなか留学しようと踏み出せない人は、留学できない理由を並べて後悔するよりも恐れずに経験してほしいです。